

「学校の働き方改革」現場の実態・実感アンケート【速報版】

今年の8月に日教組が実施した上記アンケートにご協力いただきありがとうございました。その結果の速報値が入りました。以下、きょうと教組ニュースレターからの引用です。

働き方改革は



依然スローペース

この夏日教組は、インターネット調査として「学校の働き方改革」現場の実態・実感アンケートを実施しました。1万人を超える教職員（小学校約7000人）がこれにに応じていただきました。ありがとうございました。6日の労働条件・賃金担当者会議で速報値が発表されました。それを踏まえながら、教職員がおかれている現状を報告しておきます。Qの番号・表題は編集部で任意につけています。

Q1【学校での仕事は何時間？】

運動部活動顧問 **11時間37分** 文化部顧問 **11時間10分**

顧問はしていない **10時間22分** 部活動が設置されていない **10時間51分**

Q2【学校での仕事は昨年からかわったの？】

変わらなかった **50.4%** 減少（大幅に減少とやや減少を含む） **18.2%**

増加（大幅に増加とやや増加を含む） **29.4%**

Q3【学校での出退勤の管理は怎么样了？】

(管理職が) 把握している **65.9%** 把握していない **9.6%**

Q4【自宅勤務は理解してくれているの？】

(管理職が) 把握している **6.0%**

把握していない **54.4%** 分からない **37.7%**

Q5【学校での部活動はどうする？】

地域のスポーツクラブに移行する **41.5%**

地域の活動経験者に協力してもらう **25.2%**

部活動は教員が引き続き指導する **10.5%**



「部活の負担は結構大きいのです」

Q6【多忙化解消に必要な手立ては？】

教職員の定数増 **83.5%**

持ち時間数の削減 **33.0%**

少人数学級の推進 **32.8%**

校務分掌の負担軽減 **30.4%**

学校事務の負担軽減 **24.4%**

研修・指定校の縮減 **19.0%**



以上の結果から教職員の勤務実態が浮かび上がってきます。①部活を担当しているか否かにかかわらず恒常的に超過勤務となっている。最低でも週10時間の超勤、月40時間超というのが実態。②「教職員の働き方改革」というかけ声はあるもののなかなか実質的な勤務時間短縮は実現できていない。③職員の働き方を管理職は、学校にいる間は把握しているが「持ち帰り」についてはほとんど把握していない。④部活動は外部委託を望む声も大きいですが、依然として「教員がする」との考えもある。⑤多忙化解消策について、「定数を増やして」と「授業時間を減らして」とがやはり切実な要求だといえる。

すぐに解決できる課題ではありませんが、息の長い要求実現へのあゆみが必要だと言えます。